

行政機関の取組紹介

1. 行政機関の取組

意見交換会に先立ち、山形労働局・東北地方整備局・山形県・米沢市が、それぞれの取組内容を紹介しました。

【山形労働局】（別添資料2参照）

- ・ 県内の建設事業者アンケートを実施。
- ・ 結果、注文者の都合により残業が発生している、災害対応の時間数が把握されていない等の問題が認められた。



【東北地方整備局】（別添資料3参照）

- ・ 東北未来「働き方・人づくり改革プロジェクト2024」を実施。
- ・ 週休二日工事の普及・拡大やDXの推進などにより働き方改革の推進や生産性向上の推進に努めている。



【山形県】（別添資料4参照）

- ・ 「週休2日確保工事実施要領」を策定。
- ・ 5年前から実施しており、当初は最低でも毎月1回土曜に休もう、という目標から始まったが、今は毎週土曜は休もう、という目標になった。
- ・ 国交省、農政局、市町村、建設業協会、建設産業団体連合会とも協力しながら建設業界全体で実施。



【米沢市】（別添資料5参照）

- ・ 県が定めた「週休2日確保工事実施要領」に基づき独自の週休2日確保工事実施要領を策定。
- ・ 工事発注前に市内の建設業者に工期についてのアンケートを取り、工期の見直しを行った。
- ・ ASPを採用。本工事で本格的な運用を行っている。
- ・ 「ワンデーレスポンス実施対策工事実施要領」を策定。



建設現場で事例確認

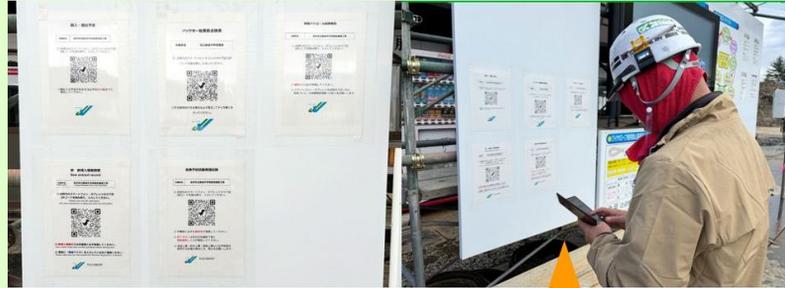
2.事例紹介

建設現場で実際に後藤組が取り組んでいるDX事例を紹介いただきました。



◎新しく現場に入場した人の教育記録や毎日の作業予定など、従来紙で記入したり掲示板に掲示したりしていたものを電子管理に移行。

各人のスマートフォンで書類を入力させ、クラウド管理することにより紙の資料を大幅に削減することに成功。



QRコードで読み取りスマホ入力

◎生コンクリート搬入車の入場状況を紙の伝票で把握していたが、現場と搬入業者との連携が取れず、荷待ちを発生させていた。各搬入車にGPSを取り付け、位置情報把握アプリを活用することにより次の搬入車が到着する見込み時間がわかるようになり、搬入業者の荷待ちを削減することに成功。



after

現場内でもタブレットで確認可能！リアルタイム表示

搬入・搬出予定

本日の予定

搬入・搬出	ゲート	日付	開始時間	終了時間	種
搬入	No.2 (車庫)	2024/11/01	13:00	15:00	北棟
搬入	No.2 (車庫)	2024/11/01	8:00	17:00	北棟、室内運搬機棟
搬入	No.2 (車庫)	2024/11/01	8:30	17:00	北棟
搬入	No.2 (車庫)	2024/11/01	9:00	16:45	南棟

設備種類	車種	台数	備考
型枠	ユニック	1台	null
基礎梁間工補強筋	トラック	1台	null
梁材	6t	2台	1台で往復
ゴ3番*4ミルクレール交換	ユニック車	1台	ゴ3番*4ミルクレール交換

明日の予定

搬入・搬出	ゲート	日付	開始時間	終了時間	種	業者名	積荷種類	車種	台数	備考
-------	-----	----	------	------	---	-----	------	----	----	----



GOTO's chatbot 株式会社後藤組

さんが出発しました。

● 現場までの距離：4.48Km

● 現場までの所要時間：12.57分

● 到着予定時刻：15:08:22

● 予想ルート：<https://eta.gto-con.co.jp/route/20241031151548.html>



意見交換

3. 建設業の抱える問題への対応について

現在の建設業が置かれている長時間労働・人手不足という問題への対応について、以下のよう
な意見が出されました。

①DX化について（後藤組）

後藤組では2024年問題・人手不足への対応としてDXを始めた。当初は通常業務にアプリ開発の負担がプラスされてしまうため、「普段の業務でも忙しいのにそんなことしてられない」と社内でも反発を受けた。そのため、まずは従来会議資料や請求書などの作成で発生していた「二重入力」をなくそう、とはっきりした目的を立ち上げてから、社員全員に研修を行い、各自自分が使いやすいと思うアプリを開発してもらったところようやく社内に浸透した。

DX化が目的ではなくまず何をしたいのか目的を決めその手段にDXを用いるという方法が最適だと思う。

課題としてはまだまだ発注者側の理解がないこと。例えば、当社は現場でのコミュニケーションをチャットで行っているが、発注者に利用を依頼しても対応いただけないことが多い。セキュリティ上の問題もあるかとは思いますが、対応いただけるようになってほしいと思う。



②週休二日制の工事について（米沢市）

公共工事における課題として、国から補助が出る工事の場合、交付決定後の発注となる制約があるほか、特別豪雪地帯でもある米沢市は、週休二日の確保が困難な場合がある。

このような条件の中で、完全週休二日制達成のために、どのようなスケジュールを組み立てていくかを、建設業者の理解も得ながら進めていく必要がある。

建設業の担い手不足を解消するため、今回の現場で確認したDX活用事例を別の発注に生かしながら今後も積極的に週休二日制の工事を広めていきたい。



③現場全体での週休二日制の実現に向けた取り組み（後藤組）

本工事現場では建築・電気・機械工事がそれぞれ別発注となっている。

以前は「電気工事・機械工事は夜間・休日にやるもの」との考えがあったが、月次の工程管理や週内での調整により、可能な限り建築工事側のスケジュールを前倒しするなどして電気・設備工事の作業日を確保し、週休二日制を実現している。



意見交換を踏まえて

4. 今後の課題

意見交換の結果、以下の課題が見えてきました。

- ・ 建設現場ではDX化・ICT化が徐々に進んできているが、発注者側からの理解が得られず結果として業務の簡素化が行えない場合があること。
- ・ 工事開始のタイミングや気象条件などの制約がある中で、完全週休二日制を確実に達成していくためのスケジュールの組立てに関するノウハウなどがまだまだ浸透していないこと。

5. 今後の山形労働局の取組について ～意見交換会を終えて～

後藤組様の徹底したDX化の取組は、社員の働きやすさ向上に役立っており、これから新卒採用の応募の拡大にも寄与することが期待されるのお話がありました。この人手不足の中で後藤組様の非常に先進的な取り組みがどんどん広まっていけば、建設業に対する学生の関心も改めて湧くこととなるかと思えます。

また、発注者の米沢市様の取組も非常に参考になるものが多くありました。建設現場の週休二日制は最近でこそ徐々に見られるようになりましたが、全国と比べて県内だとまだまだ浸透していないように見受けられます。

本日の事例をはじめとして県内に週休二日制の工事が広まるよう普及活動をしていきたいと思えます。そして、その役割を行政が担っていきたいと思えます。



引き続きこれからも県内の働き方改革の推進に向けてご協力をいただきたく思います。

山形労働局長 小林 学